

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

知的障がいのある生徒が就労を通じて社会的自立をめざす学校

- 1 生徒一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばし、健やかな身体と心豊かな人間の育成をめざします。
- 2 実践的な職業教育の充実を図り、仲間と地域の中での学びを通して、主体的に社会に貢献できる人材を育成します。
- 3 知的障がい生徒の就労支援拠点校としてのセンター的機能を発揮し、学校の取組みを発信します。

2 中期的目標

めざす学校像を実現するために専門性向上・人材育成・校内組織の発展的改正等を行いつつ、さらなる充実を目指します。めざす学校像の「知的障がいのある生徒が就労を通じて社会的自立をめざす学校」のさらなる成長発展と、卒業生の職場定着支援を念頭に、卒業後の豊かな生活獲得のための支援体制充実の計画立案を行います。年間計画に基づき、3年先の学校像を見据える気構えで、全教職員がその主旨と内容を理解して実行に移します。新学習指導要領の考え方を踏まえながら、ここでは絶えずPDCAサイクルによる効果の検証を図り、下記の「中期的目標」を達成していきます。

- 1 職業学科のある高等支援学校教員としての専門性の確立
 - (1) 各教科の視点を大切にしながら、キャリア教育に結びつけることを重点にした授業力の向上をめざす
 - (2) 支援教育の専門性向上と、すべての教職員が実習先企業等との折衝を念頭に社会人としての資質向上をめざす
 - (3) 効率の良い業務推進で、心身共に健康な状況で生徒に接する心構えの育成をめざす
 - (4) 生徒の特性把握と個別課題を見つけ、より幅広い適性を高める教育の実践をおこなう
- 2 地域の知的障がい生徒の就労支援拠点校としての使命を果たす
 - (1) 保護者と学校が、すべての生徒就労実現の進路目標を共有して就労率100%をめざす
 - (2) 就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮
 - (3) 積極的な広報活動により地域、企業とのつながりを強める
 - (4) クラブ活動の活性化と高等支援学校や高等学校との連携、交流をおこなう
 - (5) 併置校の難波支援学校との協働を推進し、地域住民や地域学校等との交流を積極的におこなう
 - (6) 共生推進教室設置校（今宮高等学校、東住吉高等学校）との連絡・調整に努め、円滑に共生推進教室を推進する
- 3 地域に貢献できる社会人、職業人を育てる校内組織の充実
 - (1) 教職員の見守る力で安心・安全に過ごせる学校環境づくりをおこなう
 - (2) 常に進化を続ける「学びと実践の人材」を育成する
 - (3) 卒業後の職場定着支援体制の確立と、豊かな生活を実現するために関係機関との連携をすすめる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
一、職業学科のある高等支援学校教員としての専門性の確立	(1)教科の視点を大切に して、キャリア教育に 結びついた授業力の 向上 (2) 教員の支援教育の 専門性と社会人とし ての資質と意欲向上 をめざす (3)効率の良い業務推 進で、心身ともに健 康な状況で生徒に接 する心構えを育成 (4)生徒の特性把握と 個別課題を見つけ、 より幅広い適性を高 める教育の実践	(1) ア 教員間の研究授業・研究協議の実施 イ 授業アンケートの実施 ウ 授業参観の実施 エ 人材バンク等外部人材の授業・クラブ等への積極活用 オ 生徒が主体的に興味を持って取り組める教育の実践 (2) 教員の支援教育の専門性と社会人としての資質向上や、働く意欲向上をめざす研修や取組みの実施 (3) 職員間で多様な働き方を認め合い、効率の良い業務推進で働き甲斐のある職場環境を作り、働き方改革を意識して心身共に健康な状態で生徒に接する (4) ア 個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実と活用 イ 生徒自身の適性を知り就労のための高い適応力を育む ウ 生徒・保護者のニーズを的確に把握し、就労実現へつなぐ エ 実践的な職業教育を通じて、高い職業意識を育む オ 企業ニーズにマッチした職業教育の実施 カ 社会貢献活動を通して、自他の存在価値を認めあえる人づくり	(1) ア 初任者は前後期で年2回以上研究授業実施できたか。 イ 年間1回以上実施し、振り返りシートを活用したか。 ウ 年2回行い、うち1回は公開授業週間として保護者と地域支援学校等への案内を実施できたか。 エ 複数人材（SSW、臨床心理士等）を年間10回以上活用したか。 オ 学校教育自己診断における、授業・指導に対する肯定率 生徒90%保護者90%以上となったか。 （生徒 H29 86,3 H30 87,0 R01 85,0%） （保護者 H29 88,0 H30 90,3 R01 82,0%） (2) ・「個別の教育支援計画」作成活用や生徒理解等に関する支援教育専門性向上をめざす校内研修（外部講師招聘を含む）を5回以上実施できたか。 ・認定講習受講等で特支免許保持率95%以上となったか。 (3) 多様な働き方（ズレ勤務等）を職員同士で認め合う職場環境づくりで、職員の働く意欲向上に繋げることができたか。働き方改革を意識し、効率良い業務推進で、ワーク＆ライフのバランスを取り、心身共に健康な状態で生徒に接する心構えを作れたか。 (4) ア 「個別の教育支援計画」を本人・保護者のニーズを踏まえた作成と活用が充実してできたか。 イ NACP（NANIWA Assessment of Career Planning）活用と自立活動の充実活用で、自己肯定感向上と適性把握を実施し、生徒の自立と社会参加に活かされたか。 ウ 定着につなぐ移行支援計画を作成し、就労先企業の生徒理解と卒業後のアフターフォローに活用できたか。 エ ・企業見学会出前授業等各学年2回以上実施したか。 ・年間7回以上の企業等現場実習実施したか。 （R01 6回） オ ・企業ニーズに沿ったICT活用等の職業教育を実施できたか。 ・学年プレゼンテーション大会等3回以上開催したか。 （R01 2回） カ 年間3回以上地域清掃等ボランティアを実施したか。 （R01 2回）	

府立なにわ高等支援学校

<p>二、地域の知的障がい生徒の就労支援拠点校としての使命を果たす</p>	<p>(1) 保護者と学校がすべての生徒就労実現の目標を共有 (2) 就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮 (3) 積極的な広報と活動により地域、企業とつながる (4) クラブ活動の活性化と府立高等支援学校間の連携 (5) 難波支援学校との協働、地域との交流促進 (6) 共生推進教室を、高等支援本校として円滑に推進する</p>	<p>(1) ア 進路説明会等の充実(説明会・学習会・懇談会・企業見学会の開催) イ 保護者懇談会等で教育支援計画の話し合いを持ち、共通理解をはかる ウ 教育活動の発信(学校HP、マチコミメール、PTA・進路・学年通信の定期発行、コミュニケーションノートの活用) (2) ア 地域の中学校、高校、教育委員会等への本校キャリア教育と生徒指導、支援体制等の伝達 イ 地域へ本校の取組みの紹介 (3) ア 創立6年目を迎えた本校の存在を地域資源(法人・企業等)に全教員で積極的な広報活動により職場実習先の開拓 イ 地域への社会貢献と地域資源の活用、活動発信 (4) ア クラブ活動を通じて自己肯定感を高めて、将来への余暇活動活用と職場定着支援に繋げる イ 高等支援学校5校の連携 ウ 積極的に運動系、文科系の活動発表をおこなう (5) ア 難波支援学校、地域保育所、連合町会等と防犯・防災(火災、地震、津波)訓練を共同開催することで併設校や地域と緊密に連携する イ 地域関係学校等との交流をおこなう (6) 共生推進設置校(今宮高校、東住吉高校)との連携をおこない、職業教育に関するスクーリングを円滑におこなう</p>	<p>(1) ア 年間5回以上進路説明会等を実施できたか。 イ 1年生は入学後の懇談会等年4回以上実施したか。(R01 3回) ・2,3年生は保護者懇談会等年間3回以上実施したか。(R01 2回) ウ 月1回の学校HP更新とマチコミが活用できたか。 ・毎月1回の通信発行(学年通信、保健だより等)ができたか。 (2) ア 近隣の中学校、高校、教委、経済団体等への研修会講師派遣等2回以上実施できたか。 イ オープンスクールを実施し、参加者700名以上獲得できたか。 ・学校説明見学会を実施し、入学志願者70名以上獲得できたか。 ・職業現場実習報告会等を開催できたか。 ・定着支援体制に関する研修会と報告が実施できたか。 (3) ア 全教員で現場実習受け入れ先、就労受け入れ先企業等(現在約750件)を生徒の状況に応じて活用できたか。 イ 地域支援ステーション等との交流、作品展等に積極参加及び製作物の展示販売等の実施ができたか。 (4) ア クラブ部活動奨励(週3回)と高等支援学校、高等学校との活動交流を促進できたか。 イ 高等支援学校リーグ等の積極的な立案と参加ができたか。 ウ 各種大会(近畿・全国大会等出場含む)各種展覧会等への積極的な参加ができたか。 (5) ア 行事、訓練、教員研修の合同実施を各年間3回以上、月1回難波・なにわ連絡会議を実施できたか。 イ 地域人権フィールドワーク等に積極的に参加できたか。 (6) 府立東住吉高校、府立今宮高校と連携し、共生推進教室生徒に週1回の専門職業に関する指導ができたか。</p>
<p>三、地域に貢献できる社会人、職業人を育てる 校内組織の充実</p>	<p>(1) 教職員の見守る力で安心・安全に過ごせる学校環境づくり (2) 常に進化を続ける学びと実践の人材育成 (3) 卒業後の職場定着支援体制の確立と、豊かな生活実現を実現するために関係機関との連携</p>	<p>(1) ア 生徒が安心して安全に過ごせる学校環境づくり、啓発活動(校内清潔度チェック、保健発表大会参加等)の実施 イ 生徒・保護者の教育相談の充実を図る ウ 問題行動に対する生徒指導体制確立(見守りによる予防・抑止効果で問題行動を未然防止) (2) ア 人材育成に組織的に取り組む イ ICT活用の徹底で校内情報の共有化と教育活動での活用・実践例蓄積・全体共有を推進する(校務と授業) ウ 創立6年目の諸課題解決に向けての協議を実施するための企画委員会を円滑に運営し活用する (3) ア 進路職業部を中心として定着支援の展開 イ 各種関係機関との連携を実施</p>	<p>(1) ア 教職員、生徒、保護者が一体となって熱中症、感染症の予防等保健衛生管理と啓発活動が実施できたか。 ・イジメ・体罰防止の指導(年3回以上のアンケートと研修実施)をおこない、生徒の安心感を促進できたか。 ・携帯、メール・ブログ被害の危険性防止講習2回以上実施して適切なSNS活用の指導ができたか。 ・総合の時間を活用し、年間を通じた仲間づくりをテーマにした授業2回以上実施できたか。 イ 外部講師を招聘して生徒対象講習会を実施できたか。 ・研究部と学年が連携し、生徒・保護者に寄り添う教育相談等を実践して、困り感を解消できたか。 ・困り感のある生徒支援のために、臨床心理士やSSWとの相談体制確立ができたか。 ウ 教員の気づきによる報・連・相の徹底ができたか。 ・登下校通学路指導を実施して安全確保ができたか。 ・校内巡視体制で校内安全安心が徹底できたか。 (2) ア 校内初任者の研修相談体制の充実(校内バディシステムや産業医活用、管理職面談等)ができたか。 イ 校内ICT機器の校務・授業等で活用方法研修会を年間2回以上実施できたか。 ウ 企画委員会が月1回以上開催し、校務に貢献できたか。 (3) ア 定着支援チームの活用と定着支援期間(4~6月)設定。卒業後1年間職場定着率90%以上をクリアできたか。 イ 就労・生活支援センター、市町福祉部署等との連携が促進できたか。</p>